【様式】

平成３０年度　学校マネジメントシート

　 学校名（　桑名西高等学校　）

１　目指す姿

Ⅰ「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

　Ⅰ－１　防災対策

　　　**Ⅰ－１－１　防災対策の推進**

Ⅰ－１－２　治山・治水・海岸保全対策の推進

|  |  |
| --- | --- |
| (1)目指す学校像 | ○　自らの意志で学び、より高みに向かおうと挑戦する意欲にあふれた学校○　協働と交流を通して、たくましく生きる力と他者への思いやりが育つ学校 |
| (2) | 育みたい児童生徒像 | ○　自分の興味関心や適性、働くことの意義や社会貢献について深く考え、自分の進路を主体的に決めることができる。○　授業を大切にするとともに、各教科の学習活動に自発的・協同的に参加し、知識と技能、思考力・判断力・表現力を育む努力ができる。○ 部活動との両立等、時間管理を意識して家庭学習習慣を定着すること、進路実現に向けて自分自身の学習スタイルを確立することができる。○　基本的な生活習慣等、人としてのあり方生き方のすべてにつながる土台となる部分が定着し、挨拶や交通ルールが遵守でき、他者への配慮ができる。○　ホームルーム活動や部活動を自主的・積極的に運営できる。 |
| ありたい教職員像 | ○　目指す学校像の実現に向け、教職員一人ひとりが「誰のため、何のため」を常に意識して自己研鑽に努めるとともに、生徒に関する情報や校務運営の情報が十分に共有され互いに協力し合っている。○　授業をはじめとしたすべての教育活動で、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感でき、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に取り組むことができるように工夫改善に努めている。○　普通科の理念（共通性を重視し、幅広い教養を身につける）を生かし、教職員が互いに切磋琢磨し、生徒と共に成長する活気にあふれた職場を目指している。 |

２ 現状認識

|  |  |
| --- | --- |
| (1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | 生徒：基礎基本の内容から様々な進路希望に対応した専門分野に関する内容まで、興味関心を喚起する授業。安心してのびのびと豊かな学校生活を送るための生活環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。大学進学を中心に自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かい指導・支援。保護者：学力伸長と進路希望実現に向けた学習指導・進路指導・生徒指導の充実。学校行事や部活動等をとおした豊かな人間性の育成。のびのびと豊かな学校生活を送るための安全・安心な教育環境。地域：学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。 |
| (2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| 家庭：学力の伸長および進路希望実現や、学校行事や部活動をとおした豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。中学校：本校の教育活動の特色や生徒の学校生活の様子、卒業生の進路状況などの情報提供。地域：授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした地域に開かれた教育活動。 | 家庭：学校教育に対する理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた理解と支援。中学校：中・高校生の基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。個々の生徒の教育活動充実に向けた様々な情報交換と協力・支援。地域：学校の教育活動に対する協力。将来の地域社会の担い手として生徒が自らの生き方や働き方を考えるための情報提供や協力・支援。 |
| (3)前年度の学校関係者評価等 | ・若年層が地元に残らないと地域が衰退していくことから、学校・家庭・地域の連携を一層密にし、地域のボランティア活動に積極的に関わってはどうか。・高大接続システム改革により大学入試が大きく変わる時期を迎えており、生徒の発表力や記述力のスキルアップを強化する必要がある。・各職場で働き方改革として有給休暇を計画的に取得する提案が出されており、職員の意識改革をしていく必要がある。 |
| (4)現状と課題 | 教育活動 | ・ 社会につながる力の育成に向け、知・徳・体のバランスがとれた、自ら挑戦する心を持って自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成を目指すことが求められている。・ 近年難関大学への進学志向が高まっており、AO・推薦入試をはじめ、センター試験利用や一般入試によって自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒が増えている。・ 第一志望合格に向けて粘り強く学習して国公立大学を目指す指導を強化しており、地域の中堅進学校として授業力向上や進路指導体制の改善が必要である。 |
| 学校運営等 | ・ 今後の社会で求められる力は自分の意思や判断で行動する主体性や他者と協働しながら互いに支え合う社会性に裏打ちされた力であり、総合的な学習の時間の在り方を検証し、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図る必要がある。・ 建物の構造から居室が分散し、各学年や分掌、教科を越えた横断的な取組について話し合う機会が制限されているため、教職員間での情報共有や意識統一を円滑に図るための工夫が必要である。・ 日頃から教職員間の対話を重視し、情報共有の方法や会議の運営について工夫改善を図り、「チーム桑西」として多忙化の解消と組織力向上に取り組むことが重要である。 |

３ 中長期的な重点目標

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動 | ・ 個々の生徒が保護者や地域の期待に応えながら高い目標を設定し、自ら学ぶ姿勢を身につけ、自己の可能性を伸ばすことができる学習活動を推進する。・ 新学習指導要領や高大接続改革の答申を踏まえて、生徒の進路希望実現に必要な読解力・文章力・表現力等が身につけられるよう、教職員一人ひとりが指導力の向上を図る。・ 高校生活を通して主体的に行動することができるようになり、社会性、協調性、責任感、創造力、企画力、コミュニケーション力、忍耐力などを身につけ、心身共にたくましく他者への共感ができる生徒を育成する。 |
| 学校運営等 | ・ 教科指導の活性化を目指して指導内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学力向上に向けた教科横断的な取り組みや、学年・分掌間の連携を密にして、新たな企画や改善策を積極的に提案し合う体制を構築する。・ あらゆる場面で生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、これまで教科や学年を中心に進めてきた授業力向上の取り組みを学校全体で行い、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図るよう検討する。・ 効率のよい学校運営を目指すために学校全体で目的意識の共有化を図り、教職員が意欲的に業務に取り組んで組織力を向上させるとともに、地域にとって有為な人材を育成するための最適な教育環境を創造するために、地域の多様な関係者と連携する。 |

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

　　　　また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
| 学習指導の充実 | 1. すべての授業においてアクティブ・ラーニング型授業に取り組むとともに、授業やテストでの発問を創意工夫し、生徒が主体的・協働的に学ぶ場面を一層増やす。

(2)入学時の初期指導をはじめ、各学年で定期的に実施する学習ガイダンス、家庭学習（週末課題）や課外授業（５教科）をとおして、生徒が主体的に学べるようにする。(3)各教科と連携し、図書館を活用した学びを促す。【活動指標】・ 全ての授業で、課題の発見・解決や習得・活用・探究の学習プロセスを意識した授業を実施。・ 図書室における図書便り・新刊案内などの発行（年１１回）や月１回以上の特設コーナーの設置。【成果指標】・ 主体的に授業に参加したと回答した生徒の割合　８割 | ・主体的・協働的に学ぶ場面を導入した授業に努めた。・学習ガイダンスの充実など学習意欲向上対策を講じた。・１・２年で新たな試みとして、探究学習を導入したが、探究担当の業務を明確化する必要がある。・２年生全員が図書館で本を借り、読書活動を行った。・図書便り　１１回・特設コーナー１１回・６５，９％　（２９年度　６５，７％） | ◎※ |
| キャリア教育の充実 | 1. 授業や総合的な学習の時間をとおして、自己のあり方を考え、社会の中で自分をよりよく生かす道を探れるよう、学年進行で探求学習活動の検討を進め充実を図る。

(2)将来社会の一員として期待される人間形成を目指すために、「人権・環境・平和」等についての学習を深める。(3)センター試験や私大一般入試を視野に入れて受験勉強に取り組むとともに、国公立大学における推薦入試の積極的な活用を図る。【活動指標】・　進路希望実現に向けた個人面談を年4回以上実施。・探求学習プロジェクトを組織し学年別に探求活動を実施。・ 大学進学希望者のセンター試験・一般入試受験を促進。【成果指標】・ 自己の進路希望実現に向けて最後まで粘り強く努力したと回答した生徒の割合　８割 | ・思考力や課題発見能力・プレゼンテーション能力を高める取組を行った。・２年の修学旅行での平和学習の成果が現地学習での積極性を生んだ。・昨年度と比べ、センター試験の受験者数が下回り、安全志向的な傾向がみられる。来年度は大学等に関する情報発信をさらに積極的に行っていく。・各学年ともに個人面談を年６回実施。・探究プロジェクト会議（年８回開催）・センター試験出願数　２１０名（昨年２４１名） 受験者数　２００名・９１，２％（昨年　８８，１％） | ◎※ |
| 生徒指導の充実 | 1. 生徒自らが時間を守る大切さ、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組む。

(2)生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をし合える状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、生徒相互の人間関係をはぐくむ。【活動指標】・ いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全（特に自転車事故の防止）、ネットモラル等の講演会の実施。・ 年間を通した登下校指導の実施。【成果指標】・ 基本的な生活習慣やマナーを身に付け、自ら進んで挨拶をすることができると回答した生徒の割合　８割 | ・生徒指導部だよりで積極的に働きかけた。・ネット社会に潜む人権問題についてワークショップを開催した。・生徒指導の課題については、ＳＨＲや集会で、定期的に注意喚起を行った。・各種教室の実施・登校指導（毎日：生徒指導部）・下校指導（年６回全教職員）・８５，８　％（昨年　８８，１％） | ◎ |
|  |  |  |
| 生徒の主体的な活動の充実 | 1. ホームルーム活動や生徒会活動を充実し、生徒議会や生徒総会をとおして学校行事や学校生活に関する話し合いを活発に行う。

(2)部活動をとおして精神面や体力面を鍛え、競技力の向上とともに粘り強く最後までやりぬく姿勢や人間関係を学び、それぞれが最大の成果を発揮できるようにする。主権者として社会の中で自立し、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を身につける。【活動指標】・ 授業及び総合的な学習の時間を活用した「１８歳選挙権」関連講座の実施。・ ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、教育委員会や地域と連携した活動の活性化。【成果指標】・ 高校生活をとおして人間として成長したと回答した生徒の割合　８割 | ・生徒会活動を通して、生徒が主体的に取り組み、自販機の販売時間について変更を行った。・本校の部活動ガイドラインの徹底を図りながら、部活動の活性化を目指し、活動時間や休養日を検討して実施した。・地域の選挙日程等も配慮しながら、主権者教育の充実をはかった。・みえ出前講座の開催。 ・８７，０％（29年度　８８．１％） | ◎ |
| 心と体の健康の充実 | 1. 高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理力をつける。
2. 早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・教育相談専門員との連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。

【活動指標】・「保健だより」を年間１２回以上発行、全校生徒対象講演会を年１回実施。教育相談の充実に向けた教員研修実施。・ 学校部活動運営方針と部活動指導計画の策定及び部活動休養日を週１日設定。【成果指標】・ 自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合　８割 | ・保健室利用者の個別指導を保護者とも協力しながら、さらに充実した。・保健指導や教育相談の状況を情報共有し、課題解決に向けて取り組んだ。・保健だより１５回・目標設定スキル講演会　１回・８８，３％（２９年度８７，０％） | ◎ |
| 改善課題 |
| ・今年度、探究学習プロジェクト会議を立ち上げ、産業能率大学協力のもと、生徒達に自己の課題を見出し、その解決のための方策を考える取組を行ったが、来年度は探究学習推進のために、組織づくりを行い、自らの思考力・判断力・表現力や新しい時代に求められる資質と能力および社会貢献の意志を3年間で育成していく。・生徒指導部や全教職員による継続した登下校指導を行うことにより、交通事故防止や自転車運転マナー遵守の周知に取り組んでいく。・不登校傾向にある生徒に、寄り添う指導を行うことにより、生徒・保護者の不安や悩みを解消し、外部機関とも協働して、積極的な支援を行っていく。 |

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
| 研修による資質向上の取組 | 1. 教科会の定例化による授業内容・評価方法の検討と授業力向上に取り組む。
2. 校内研修会の充実およびベンチマーキングや外部研修での成果を全職員で共有する。

【活動指標】・ 授業力向上プロジェクトを組織し研究授業やミーティングを定期的に実施。・ 教職員研修会を各種テーマで年6回（１回は指導主事訪問）実施。・ 相互授業見学（今年度から教科の枠を超えて実施）を１・２学期に１週間ずつ実施。【成果指標】・ 授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合　８割 | ・教科会を時間割の中に組入れ、教育力の充実をはかった。・外部講師から様々なテーマで学ぶ機会をつくった。・研究授業（8回）・校内研修会（9回）・指導主事訪問・相互授業見学（６月・１１月）・８５，０　％（２９年度８５，７％） | ◎※ |
| 組織運営の向上 | 1. 日頃から教職員間の対話を重視するとともに、打合せや委員会・会議の場をとおして、生徒に関する情報や校務運営の情報共有を密にする。
2. 学年・分掌の協力体制をつくり、進路指導や生徒指導、教育相談の情報共有を活発に行う。
3. 「運営委員会」「桑西改革委員会」「学校マネジメントシステム委員会」において、今後の組織運営及び入試制度や進路指導の在り方について検証する。

【活動指標】・ 桑西改革委員会等を開催し、さらなる学力育成に向け本校の現状分析と諸改革を検討。・ 組織運営の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案。【成果指標】・ 校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合　６割 | ・担任・教科担当・クラブ顧問が日常的に対話するよう心掛けた。・分掌主任・担任からの情報発信をベースに協力体制をつくった。・時間制約の中、改革委員会を年６回開催し、以下の内容を協議した。中学校に向けての発信。修学クラスのあり方。 定数減に伴う分掌やクラブ顧問数。副担任業務の明確化。・８５，０　％（２９年度８６．７％） | ◎ |
| 安全・安心な教育環境の構築 | 1. いじめや体罰がなく危機管理が充実した安全・安心な学校を目指し、日頃から生徒理解と迅速かつ適切な対応を心がけるとともに、積極的な情報発信を行う。
2. 現在および将来に直面する災害に対して、適切な意志決定や行動選択ができるようにするため、地域と連携して防災教育の充実と防災意識の向上を図る。

【活動指標】・ HPやきずなネット、学年通信等による積極的情報発信。・ 防災訓練や防災研修会を年２回実施。【成果指標】・ 情報発信が適切であったと回答した保護者の割合　８割 | ・いじめ講習会やいじめアンケート（学期に１回）・担任や養護教諭との個人面談を通じて、早期発見に努め、教育相談との連携も密に取り組んだ。・四日市大学・桑名市消防署西分署・地域住民・県の防災対策部と連携した防災学習を行った。（年2回）・きずなメールによる情報発信 106件(3/12)・防災訓練２回教職員防災研修１回ＰＴＡ防災研修会１回・ＨＰの改善を図ることはできなかった。* １００　％

（２９年度９０．７％） | ◎ |
| 地域との連携 | 1. 授業や学校行事の公開、学校施設の地域開放、協働して行う挨拶運動や美化活動などをとおして、保護者や地域との連携を一層深める。
2. 地域の信頼に応え、人材育成を地域とともに推進していくために、生徒の様子や具体的な教育内容・方針についての情報発信を強化する。

【活動指標】・　学校が企画して実施する地域連携行事の拡充。・ 久米地区や桑名市をはじめ、地域から参加要請があった各種行事への積極的参加。【成果指標】・ 年１回以上地域（学校周辺・自宅周辺）の活動に参加したと回答した生徒の割合　７割・ 学校説明会および学校見学会に参加して本校の様子がよくわかったと回答した中学生の割合　８割 | ・挨拶運動(4月・11月)・授業公開（２回）・久米地区挨拶運動（９月）・自動車学校での演奏（吹奏楽部：6月）・西高祭公開（９月）・各中学校に学校説明会の案内や学校案内を持参、中学校訪問（延べ４７校）を行い、情報発信をした。・地域清掃活動（10月）・竹の十三夜（10月）　 （音楽部）・久米っ子フェスタ　桑名西・正和中学校（合同）吹奏楽部（久米小学校）・市長と桑名の未来を語ろうへの参加(1/20) 本校から生徒会執行部２名参加・９６，０％（２９年度７３．５％）・９８．０％（２９年度９３．３％） | ◎ |
| 働きやすい職場づくり | 1. 会議時間の短縮などにより引き続き労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じて必要となる休暇取得などを推進する。
2. 互いに職場の仲間を思いやる心がけを大切にするともに、教職員一人ひとりが相手の意見を尊重しながら自由闊達に意見を言い合える職場環境づくりに努める。

【活動指標】・ 定時退校（月１回）や有給休暇の取得を促すための声かけや教職員が親睦を深める機会の充実。・本校に適した期間・場所でのオフサイトミーティング実施。【成果指標】・ 自分自身のワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合　７割・ 有給休暇の取得　年間一人平均１６日以上・ 時間外労働時間80時間越え職員の削減に努め、　週あたり一人平均１時間削減を目標 | ・定時退校日（月１回）や学校閉校日（夏季休業中２日）を設定した。・改革委員会で議論した内容を運営委員会・職員会議で提案した。・休暇取得・勤務時間縮減に向けた声かけを年間を通して行った。・オフサイドミーティングの開催（１０月）・６５，０％（２９年度６７．４％）・年休取得平均１５．８３日(３月１２日現在）（２９年度１３．２３日）・時間外労働時間一人あたり６時間増と課題が残る。 | ◎※ |
| 改善課題 |
| ・学年や分掌、担任と副担任との連携をさらに密にし、情報共有することで「チーム桑西」としての組織運営の向上に取り組む必要がある。・教職員の時間外労働の削減や、部活動ガイドラインに沿った効率的な部活動運営をより実現するための具体的な方策を検討することによって、教職員のワークライフバランスの向上や生徒の勉学との両立を目指していく。・地域と連携した防災教育を今後も推進し、学校の防災意識を一層高めるとともに自助・共助の精神を養い、自他ともに命を尊重する態度を養っていく。・様々な進路希望を持った生徒に対応した進路指導を充実するために、最新の進路情報についての情報収集や認識を深めるための研修会や講習会の積極的な参加を今後も促していく。 |

５　学校関係者評価

|  |  |
| --- | --- |
| 明らかになった改善課題と次への取組方向 | ・大学がディプロマポリシーなど三つのポリシーを明確に打ち出す中でより一層多様化し、学部の種類がたくさんあるほか、学部や学科名が同じであるにもかかわらず教授内容が異なる場合も多くなってきている。生徒が学部の内容をよく理解せずに進路決定してしまうことも考えられ、進路面談など進路指導の一層の充実を図る必要があるのではないか。・生徒たちが進路等に関する情報を得る場合、今後図書館やインターネットの活用がより一層必要になってくるが、図書購入予算は年々厳しい状況にある。インターネットで調べるためのパソコン利用についても、より自由に使用できる環境にむけて改善していくべきではないか。・働き方改革の点から、教職員の時間外労働時間の削減にむけて外部人材を活用することが求められており、ボランティアや地域の協力をもっと得る必要があるのではないか。・防災教育については、桑名市(危機管理室)とも連携する必要があり、地域の人々にも、日頃から桑名西高校のことをもっと知ってもらったり、足を運んでもらう機会を作ることが、災害時の避難に繋がると考えられる。また、今後はさらに高校生の若い力を活用することが大切ではないか。 |

６　次年度に向けた改善策

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動についての改善策 | ・進路面談などを通して、大学名で進学先を決めるのではなく、進学して何を学びたいのかを今後もしっかり指導し、一年次から積極的にオープンキャンパスへの参加等の働きかけを行っていきたい。・図書館の利用については、できる限り予算を維持して蔵書を充実させ、また生徒たちがより一層多くの本と触れあえるように、教科などでの指導を図るとともに利用しやすい環境づくりを目指していきたい。 |
| 学校運営についての改善策 | ・時間外労働時間の削減については、外部人材を積極的に活用し、部活動指導などに繋げ、教員の負担を減らせるようにしたい。また、会議の精選や部活動休養日の設定、定時退校日や学校閉校日をさらに推進していきたい。・防災教育の推進については、安全・安心な学校、地域に信頼される学校の構築につながる。次年度も継続して桑名市（危機管理室）との連携や地域との連携をさらに図るため、地域に出向き様々な行事への参加を促して、桑名西高校をさらに知って頂けるように取り組んでいきたい。・ＨＰの改善を図っていきたい。 |